

A Brief Look Into the History of Christmas Chloe Elizabeth Naylor

Christmas is one of the most celebrated holidays in the world. Santa Claus, reindeer, presents, and Christmas trees adorn every modern department store and shopping mall around the world, but where did Christmas come from? Santa Claus?

Christmas-like celebrations have been around for longer than we think. Christmas is believed to be derived from Roman and European holidays that celebrated the end of harvests and the winter solstice. Many of the things we do to celebrate Christmas in modern times were also ways to celebrate the festivities hundreds and thousands of years ago such as singing songs (caroling), gift giving, and eating special foods with family and friends. But what of Santa Claus? Story has it that Santa Claus was created from the legend of Saint Nicholas. The legend goes on to say that he was a monk that gave his riches to the poor and protected children and sailors. December 6th marks the death of St. Nicholas, but was celebrated with a large feast and considered a very lucky day. St. Nicholas gained popularity in America around the early 1800s with "Santa Claus" popping up in shops around the country in the 1820s (when Christmas shopping became well-known). The name "Santa Claus" we all are familiar with today is thanks to the Dutch name for St. Nicholas, Sint Nikolaas. It was shortened to Sinter Klaas and eventually, Santa Claus.

Much of what Christmas is about is gift giving (especially to children), eating large feasts with family and friends, and giving thanks to those that love and cherish us. The Christmas holiday for me is celebrated with a big breakfast feast, opening presents under the tree with my family, and drinking hot coffee flavored with chocolate and peppermint in front of the toasty fire place. How will you celebrate Christmas this year?

クリスマスの歴史を見れば クロイ・ネイラー

クリスマスは、世界で最も祝福される祝日の1つです。サンタクロース、トナカイ、プレゼント、クリスマスツリーが、世界中のモダンなデパートやショッピングモールを彩ります。ではクリスマスやサンタクロースの由来はどういうものなのでしょうか？

クリスマスの行事は思ったより古くから行われてきました。古代ローマ人やヨーロッパの人々が収穫の終了や冬至を祝福したのがその由来。クリスマス・キャロルを歌い、贈り物をし、家族や友だちと特別な食べ物を食べるなど、現代に我々が行う祝い事の多くは、何百年、何千年も前に行われていたのと同じです。

サンタクロースは？こちらは、聖ニコラスの伝説から生まれたとか。伝説では、貧者に富を分け与え、子どもや船乗りを守る修道士だった聖ニコラス。亡くなった12月6日は、むしろ盛大にご馳

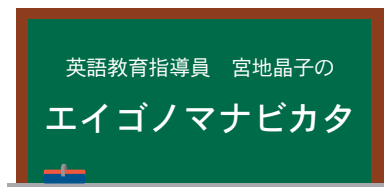
走でお祝いをする非常に幸運な日、と考えられました。聖ニコラスは1800年代初期にアメリカで人気になり、1820年代には国中の店にサンタが飾られました(クリスマスショッピングが知られるようになったのもこの頃です)。私たち馴染みのサンタクロースという名は、オランダ語のシンタ・ニコラースから。これがシンタークラスに縮まり、最終的にサンタクロースになりました。

結局クリスマスとは、贈り物をし(特に子どもたちに)、家族や友人と盛大にご馳走を食べ、自分達を愛し大事にしてくれる人達に感謝を伝えることです。私の場合、クリスマス休暇は、朝食のご馳走に始まり、ツリーの下で家族とプレゼントを開けて、ホカホカと暖かい暖炉の前で熱々のチョコミントコーヒーを飲むことです。あなたは今年、どんな風にクリスマスのお祝いをしますか。

(訳:宮地晶子)

【ちょっと豆知識】宮地晶子

アメリカでは、宗教色のはっきりした Merry Christmas!ではなくHappy Holidays!と声かけするのが、政治的に正しい。しかし、なんとトランプ大統領は一昨年「長年愛されてきたこの美しい表現を使って何が悪い。MERRY CHRISTMAS!!!!」とツイート。これ結構な共感呼んだらしいです。ちなみに大文字は主張の強さを表しています。



第166回

「当たって砕けないために」

「だめで元々」「当たって砕けろ」嫌いじゃありません。でも、こと英語の資格試験に関しては、この言葉はそぐわない。例えば実用英語検定。しっかり準備してから受験した方がゼータイにお得。問題集を解いたり、講習に出るなどして、その級を受験するのにふさわしい力をつける努力をするべし。そうすれば「合格した」と自信を持って言えます。何より上を目指すときに近道(なにホントは語学習得には近道なんてありゃしません。「やることをやる」に尽きます)。

と、私は「ダメ元」には反対ですが、例外はあります。それは「何はともあれ入試の内申書に必要だ」という差し迫った事情がある場合。こういう時は、少々背伸びしても受験するのはアリ。でも、この場合の合格は自分でも自信につながらないですよね。次の級を受験はちょっと先にして、まずは受かった級の問題を解き直すことをおすすめします。その問題が8割できないと、どのみち次の級の合格が難しいからです。

さて、大学入試の英語の民間試験、延期になりました。経済格差は厳然として存在しますよね。英検の受験料も結構な金額です。うちの子どもたちも受験は1年に1回。絶対に合格というレベルになったときだけ受験させてました。問題集も図書室のか1000円の古本。今も探せばどの級のものが結構売っています。TOEICの試験についても「何度でも受験できる方が有利」という意見がありますが、きちんと努力しない限り何回受けても点数は上がりません。とにかくコツコツ問題集を解いて、一発受験を目指しましょう。負けるな受験生!